特許公報AI読解の品質管理と実務提言

特許調査への生成AI導入における有効性と限界を明確にし、実務で成果を出すための品質管理と分類設計手法を提示する。

AI特許読解の評価と留意点

役割分担による高い検証性



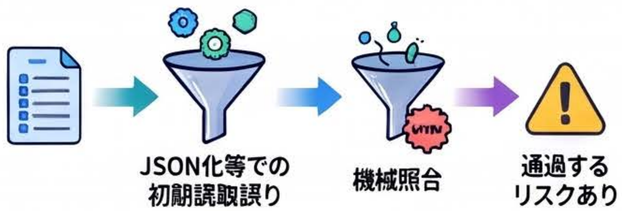
機械照合・LLM読解・人手確認の分離により問題の切り分けが容易化。

分類軸の混在リスク



請求項上の位置と技術貢献が混在すると判断のブレが生じる。

データ変換段階の誤り伝播



JSON化等での初期誤取誤りは後段の機械照合を通過するリスクあり。

報告された数値実績と技術的限界の整理

194件	76成分	143行
報告された結果：機械照合を通過	報告された結果：初回出力漏れ検出	報告された結果：定義変更で分類変化
評価できる点：設定条件を満たす自動処理を達成	評価できる点：事前計数により抽出漏れを把握	評価できる点：定義が結果に及ぼす感度を把握
注意すべき確認限界：役割分類がすべて正しいとは限らない	注意すべき確認限界：入力データ段階での漏れは検出不可	注意すべき確認限界：変更後の合行が正解になったとは限らない

実務導入に向けた3つの改善提言

分類体系の多軸化



請求項ランク・成分機能・課題解決貢献度を別々に記録・評価する。

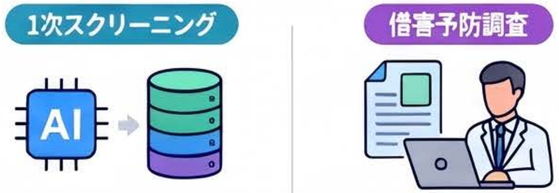
二重の検証体制構築



原データ変換精度を事前確認し

熟練者による独立判定を実施する。

調査目的に応じた運用



1次スクリーニングに活用し検索が網羅する。

偏害予防調査では人間が網羅する。

Gemini Notebook